

患者サポートセンター

看護師長 河野 純子
看護師長 松本 由美

「その人らしい生活」の共有をめざす

患者サポートセンターは、「安心を届けるサポートセンター」入院前から退院後も一人ひとりを支えます。をスローガンに、医師・看護師・メディカルソーシャルワーカー・薬剤師・栄養士・事務職員などが集い、幅広く医療サービスの提供に努めております。現在、看護師は、「入院に関する書類、お薬・持ち物・食事など検査・手術の準備についての説明」と「生活や療養に必要な情報の確認」を主な業務に、生活や療養に必要な情報として、「病気や治療」「ご家族や社会からの支援」「日常生活動作や生活・活動」「患者様のご意向」をお伺いすること、退院・転院に備えて患者サポートセンター内・院内・近隣の病院・施設・行政と連携します。診療開始時期に退院や退院後の生活についてお伺いすることを疑問に感じる方がおられるかもしれませんが、十分に考えたり話し合ったりする期間を持っていたくださるに、前もってご確認させていただきます。また、同時に患者様やご家族様、患者様を支える方などから、入院や手術、療養に関する不安や悩みなどのご相談をお受けしておりますので、お気軽にお尋ねください。

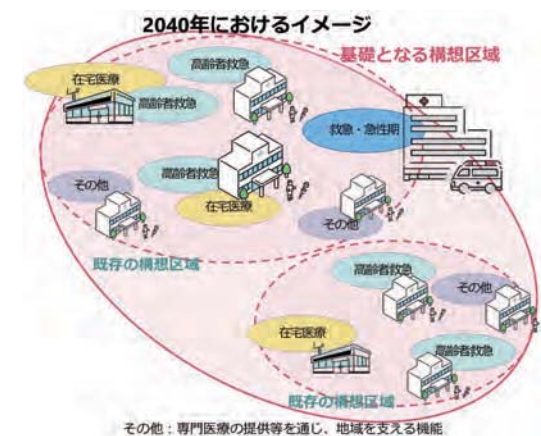


患者サポートセンターの主な業務内容

- 前方連携
地域医療機関から紹介患者様の受け入れ窓口
- 入院前管理センター機能
入院決定時からの環境調整・術前管理
- 後方連携
退院支援を中心とした近隣施設との連携・調整
- ベッドコントロール
予定・緊急入院のマネジメント

当院の入退院支援は、外来で手術を控える患者様に入院前準備の説明をするための小規模活動から始まり、その後、患者様のニーズ・社会情勢・医療制度の変化とともに拡充してきました。現在、私たちは、初めにお伺いした「病気や治療」「ご家族や社会からの支援」「日常生活動作や生活・活動」「患者様のご意向」に沿い、当院からの早期退院をめざし、それらの情報が「その人らしい生活」に活かされるよう地域コミュニティに引き継ぎ活動をしています。患者様・ご家族様は「病院から早期に追い出される」と不安を抱かれるかもしれませんが、住み慣れた地域で継続した治療や看護が受けられるように支援体制を整備していきますのでご安心ください。わが

国は、少子高齢化や単身世帯の増加・不安定な経済といった変化する社会情勢の中で限られた医療・介護資源を有効に使うために、「地域のいくつもの病院が集まって、医師・施設・機器やシステムを共有し対応する」



厚生労働省 第9回新たな地域医療構想等に関する検討会

政策を推進しています。病院だけでなくクリニックや介護施設、訪問看護ステーション等がつながり、医師だけでなく理学療法士や栄養士など、様々な医療関係者が患者様を軸に活動しています。地域包括ケアシステム構築のため地域医療連携推進法人「泉州南メディカルネットワーク」が立ち上がり、当院はその中心的な役割を担っています。

これからの医療の質は、患者様の「その人らしい生活」を近隣地域でどれだけ共有できるかによって変わると考えております。それを実現させるためには、患者様ご自身が南泉州地域の医療体制についてご理解をいただくことが重要です。その上で、「ご自分らしい生活」をご家族・医療介護関係者・行政等と共有していただくようにお願いします。大きな病気に罹る前から、どんな療養生活を送ることになるだろう、どういう医療を受けたらだろうとイメージし、かかりつけ医を持つことや住まいの近くの病院、介護施設のことを知ることでも大切です。イメージをサポートするためのメッセージノートなども準備しておりますので、興味を持たれた方は、看護師にお問い合わせください。

大きな病気に罹る前にしておいていただきたいこと

- かかりつけ医を持つように、回復や療養するための病院を選んでおく
- どんな状況だったら家に帰れるだろうと考える
- どんな状況だったら家での生活が難しいだろうと考える
- もしもの時の介護施設を選んでおく
- 自分の気持ちを代弁してくれるのは誰か考える

